

あしたのために

四日市市立朝明中学校
1 年生学年通信
令和元年 9 月 27 日 (金)
その 59 文責 (浅野)

自主自立！

3

～昔からの云われにはやはり何か意味がある～

「三人寄れば文殊の知恵」とか「三つ子の魂百まで」、「石の上にも三年」、「三度目の正直」、「早起きは三文の得」、「仏の顔も三度まで」、…など、日本には「3」という数字のつく諺や教訓がたくさんありますね。いろいろ調べてみると、仏教でも、「父親と母親から子供が生まれる」と言う時には 3 という数字が関わって 1 つの完成されたものを創り出すことから、「3」は完成された安定感のある数字とされていますし、他にも「仏教の三宝」、「三位一体」、「仏教の三界」、「三途の川」、など「3」はいたるところで使われています。みんなもどこかで聞いたことはありますよね。

さらに、みんなもよく知っている京都の三十三間堂の観音様は姿を 33 種類に変えて現れるという言い伝えがあり、その仏像が 1001 体あることから、自分の顔に似た仏像が必ず 1 体あると言われる無数の仏像の数は 3 万 3333 体ということになる。など、まさに「3」づくしですね。

数の概念がまだ発達していなかった時代の日本においては、「3」という数字はいちばん大きい数と考えられていたようです。このため、「3」は無限であり神秘的なものと考えられるようになり、神聖な意味が込められていたと言われています。要するに「3」は完成された安定感のある数字とされてきたのです。

また、「松島・宮島・天橋立」を「日本三景」、「赤・黄・緑」を「色の三原色」、「大関・関脇・小結」を「相撲の三役」、「高野山・比叡山・恐山」を「日本三大霊場」、さらに日本だけに留まらず、世界規模でも、世界三大宗教(仏教・イスラム教・キリスト教)、世界三大珍味(フォアグラ・トリュフ・キャビア)、三大発明(火薬・活版印刷・羅針盤)などというように、1 つのテーマで際立ったものを 3 つに絞ってひとくくりになっていることは、どの文化や宗教観でも共通といえるようです。

私たちの生活の中でも、身近にあるみんなの机やイス！水平な床なら 4 脚のイスの方が安定しますが、でこぼこした床やグラウンドのような地面では、4 脚以上のイスは、必ずいずれかの脚が宙に浮いて、ガタガタして安定性を失くしますよね。ところが、3 脚ならば 3 点で平面を決定するのでどんな地面でも安定するのです。カメラやビデオ撮影で「三脚」を使うのは足場が悪くても安定し、ショットがブレることがないからなのです。

このように自然界を支配している「3」や、「3」を好む人間、四角よりも安定性が高く強い三角形という構造など、考えれば考えるほど「3」という数字は神秘的に思えてきます。

「安定と調和の数字 『3』 の不思議」という本を一部参照

勉強にも同じことが言える！？

- ・学習とは**予習・授業・復習**という 3 つの行動から成り立っている。テストも同じことです。**勉強・実践(テスト)・復習**の 3 つが成立してこそ学習することになる。
- ・問題集は最低 3 回以上は繰り返さないといけない。テストも近いこの時期は、1 回目をやってできなかったらその場で解答、解説を確認して、すぐに 2 回目をやることです。そして、それで終わりにせず、その後すぐに確認のための 3 回目をやります。不思議なもので 3 回やるとだいたい覚えます。(その場では…)
- ・成績は、**勉強時間・集中力・勉強法**の 3 つの柱から成り立っている。

つまり『世の中は「3つ」揃ってはじめて安定する』は人に共通した感覚で、だからこそ「3」が文化や国境を越えて用いられているのかもしれないね。みんなの周りにも、不思議な数字「3」で気になることや、気づくことが多くあると思います。ちょっと立ち止まって考えてみると何らかの理由が見つかるかもしれませんね。

長々と書いてしまいました・・・テスト勉強がんばってください。**今日・明日・明後日**の 3 日間が勝負！

